

平成 31 年度 県民の環境活動支援事業

ちば里山カレッジ「森を知ろう・森に学ぼう」実施報告書（4）

第 4 回「里山の色々な姿を学ぶ」

特定非営利活動法人ちば里山センター

題名	ちば里山カレッジ「森を知ろう・森に学ぼう」 第 4 回「里山の色々な姿を学ぶ」 実習①：紙敷石みやの森を見る 実習②：野うさぎの森を見る 実習③：紙敷みなみの森を見る 実習④：ビオネスト製作実習
日時	令和元年 10 月 6 日（日） 9：30～16：00
会場	紙敷石みやの森、野うさぎの森、紙敷みなみの森
出席者	受講生 15 名（8 市）・講師 4 名、スタッフ 3 名
内容	9：30～10：30 東松戸駅～ゆいの花公園 10：40～11：20 実習①：「紙敷石みやの森」を見る 紙敷石みやの森 会員 山下 烈 11：30～12：10 実習②：「野うさぎの森」を見る 野うさぎの森 会員 山田 博道 12：10～13：00 昼食 13：00～14：00 実習③：「紙敷石みやの森」を見る 紙敷みなみの森 代表 加藤 茂男 14：00～15：00 実習④：「ビオネスト製作実習」 15：00～ まとめ、第 5 回の案内・ガイダンス、東松戸駅まで徒歩、解散
報告	<ul style="list-style-type: none"> ・第 4 回里山カレッジは、松戸市南部に広がる 3 つの樹林地を観察・見学した。 ・東松戸駅から紙敷石みやの森まで徒歩で風景を観察しながら向かった。駅東側に広がる住宅地の中頃に調整池があった。かつては樹林地、畑地の広がる土地に新興住宅、高層マンションが大規模に建設され、急激に都市化が進んだことから、雨水の下水道への流入コントロールを調整池が担っている。畑地のなくなった後、調整池ではカモ、サギなど鳥類が餌をついばんでいる姿が見られ、生物生息空間になっているということだった。 ・ゆいの花公園では園芸種の鮮やかな草花が見事に咲き、四季折々の草花が観賞できるため、休日にはみどり好きのお客さんの来訪を受け入れている。 ・紙敷石みやの森、野うさぎの森、紙敷みなみの森は、もと一つの森だったが、昭和 54（1979）年北総線の開通により南北に分断された。 ・平成 22 年松戸市里山ボランティア入門講座の第 7 期の修了生が紙敷石みやの森を拠点として里山整備のボランティア活動を始めた。続いて、同講座第 11 期の修了生が紙敷みなみの森を、第 12 期修了生が野うさぎの森の活動を始めた。 ・紙敷石みやの森はコナラ、イヌシデなど落葉広葉樹、シラカシ、スダジイなど常緑広葉樹、スギ、サワラなど針葉樹が混在した森。森の命名の元となった石祠は江戸時代に建立。歴史を刻んだ森だ。この森の会員に 40 分ほどかけて案内してもらった。

- ・次に向かった野うさぎの森は北総線の南側に位置し約 1.8ha の広さ。シラカシ、イヌシデ、ヒサカキ、スギ、サワラなどが主な雑木林で、活動の当初マダケの竹林整備をしたところキンラン 500 株、ギンラン 80 株が一斉に咲きだしたとのこと。
- ・午後から紙敷みなみの森を見学した。面積約 1 ha で、イヌシデ、コナラなどの落葉樹のほかにもスギ、ヒノキ、サワラの針葉樹が混じる雑木林。
- ・会員の案内で北総線との間の草地にミツバアケビ、ゴヨウアケビ、ヒヨドリバナ、シオデ、コバノカモメヅルなど貴重な植物品種が生育している。タヌキも生育していたらしく、ため糞が数か所発見され、糞の内容物の調査も行ったとのことだ。
- ・紙敷みなみの森の見学後、栗林でビオネスト製作作業を行った。台風による被害は松戸市内の栗林でも同様で、一次処理された落枝の整理もかねて、ビオネスト二か所の製作実習を行った。
- ・都市部の 3 つの樹林地、元は一つの森だったが、整備を始めたことで、それぞれ特徴を持った森になった。紙敷石みやの森は落葉広葉樹、常緑広葉樹、針葉樹が混在し、癒し効果の期待できる森となっていた。
- ・野うさぎの森は子育てグループ、ブックトーク、バドミントンコートに卓球台など、森を利用する活動でにぎわう森となった。
- ・紙敷みなみの森は、春のタケノコ、秋の栗と森の恵みに恵まれ、冬でも暖かい南斜面が特徴を表している森になっていた。

添付資料（写真）



ゆいの花公園で



紙敷石みやの森入り口



石みやの森農園



石みや様とスタジイ巨木



野うさぎの森の説明を聞く



野うさぎの森台風被害を見る



草地に生育する植物の観察



タヌキのため糞を調査



ビオネスト製作中



ビオネストを前に集合写真



栗林整備前



栗林整備後